勝利の伝説シェブロンラインは最高級品の証。

"Chevron-Line" ist der Beweis höchster Qualität.

勝利をめざすなら、選ぶべきだ!

――――無言の威圧感を与えるヒュンメル――――

■第7回日本リーグ＝前期＝■

大同が全勝で折り返す

立石、ジャスコ、大崎、ピタリと並走

第7回日本リーグは、6月12日に開幕、7月11日まで、男子15試合、女子13試合の前期の熱戦を展開した。

男子は予想通り大同特殊鋼と湧永製薬（湧永薬品が社名変更）の二強が全勝で最終戦に対戦、大同が先勝してリードを奪い前期を折り返した。残り4チーム中、日新製鋼、本田技研鈴鹿、大崎電気は、いずれも2勝3敗となり、3位争いは大混戦で、後期も激しい試合が期待される。大阪イーグルスは全敗で前期を終え、苦しいリーグとなった。

女子は、ユーゴからの2選手を加えた立石電機が好調に3連勝、ジャスコ、大崎電気も同じく3戦全勝でピタリと並んでいる。

男子

第1週第1日

▽6月12日（土）岩井市市民総合体育館（茨城）

大同特殊鋼（1勝） 23（11−13、12−8）21 大崎電気（1敗）

○……昨シーズンの王者・大同に対する大崎は4年ぶりに復帰したチーム。ところがどうしてどうして、大崎が王者のノド元に食いついて好ゲームとなった。

大同は、柳川兄弟が父親の不幸で欠場していたこともあったが、新しい大砲・田口のデキがもつひとつで、セットプレーからの得点が少なく苦しい展開。大崎は、持ち前の速い攻撃と左腕・斉藤のパステクニック、同じく左腕の長野のフェイントからの突進などで前半4点差でついていった。

ハイライトは後半だ。大崎は後半から大同のエース・蒲生に密着マークに出て大同のプレーを分断する作戦に出た。これが功を奏して、後半8分の15−12から一気に追いつく。さらに、大崎はパスカットからの逆襲で東江が走り込んで16−15と逆転、直後のつなぎ速攻で長野が決めて17−15と2点のリード。

この場面では、さすがの王者・大同もタジタジ。若い田口をベンチに下げてベテラン花輪を投入。以後一進一退の攻防、残り7分で20−20、大崎にも十分チャンスがあった。ところがここで蒲生をマークしていた宮崎が、蒲生のフェイントプレーを思わず手で押し、痛い退場を食ってしまった。この間に大同は着実に得点、23−21で辛うじて逃げ切った。

第1週第2日

▽6月13日（日）高松市民文化センター別館（香川）

本田技研鈴鹿（1勝） 28（13−7、15−12）19 大阪イーグルス（1敗）

○……老練なテクニックが売りもののイーグルスが飛び出し、10分までに6−3とリード。しかし、本田もあわてずに、粟屋の連続得点で挽回、新人・猪野（中大出）のロングで同点とするや一気にペースを握った。三本松、粟屋猪野などが着々と加点、11−6と一気に逆転した。

イーグルスも必死に追い上げ、12−15として前半を終了。

後半に入っても本田の動きが目立つ展開、特に新人・猪野の独特の〝イノ・シュート〟（両足ジャンプで垂直に高く上がる）で大物

ルーキーぶりを発揮。前半15分に見せたゴール前15メートルからの超ロングシュートは観衆の度胆を抜き、盛んな拍手を浴びた。

イーグルスは、エース・辻木の2回にわたる2分間退場も痛く、リズムに乗り切れないままに敗れた。

▽同・朝霞市立総合体育館（埼玉）

湧永製薬　30（18－11、12－10）21　大崎電気
（1勝）　　　（2敗）

○……前日、大同特殊鋼を苦しめた大崎電気に期待がかかったがやはり湧永はセット、速攻とも一枚上だった。

前半10分までは互角の展開だったが、大崎のシュートに湧永のディフェンス陣が慣れてくると、ディフェンス、GKともにシュートをはじき返すようになった。さらに、このシュートカットを速攻に結びつけた湧永が徐々にペースをつかみ始めた。

しかし、大崎も斉藤、長野らの活躍で、前半は2点差の大善戦。

後半に入ると、地力の差が点差に表れ、大崎も頑張るものの湧永ペース。危げのない試合展開で大崎電気を降した。

（注・湧永製薬は、6月1日付で旧社名・湧永薬品より社名変更）

▽同・市川市運動公園体育館（千葉）

大同特殊鋼　27（15－11、12－5）16　日新製鋼
（2勝）　　　（1敗）

○……前日、大崎電気に大苦戦した大同に対し、学生界ナンバーワンアタッカー・西山（筑波大出）を加えて戦力アップの著しい日新製鋼。

しかし、試合が始まってみると大同の気迫に満ちた攻防が日新の若さを完全に封じた格好で一方的なゲームとなり、期待のルーキー西山の右腕も、大同の徹底したマンツーに会って不発に終わった。

エース・蒲生にマンツーを受けることはあっても、相手に仕掛けることはなかったこれまでの大同。王者として君臨してきたプライドが、このルーキーへのマンツー作戦は許さぬものと思えたが、「日新の攻撃パターンが全て西山オンリーに集中する」（大同・野田監督）と見て、敢然と西山マンツーに踏み切った。このあたり、大同の勝利に対する執念をまざまざと感じたし、「大同だから」とマンツー対策のなかった日新側に甘さが出た一戦といえよう。

スタートの5分間は、両チームとも決めてを欠いて無得点。その後、蒲生のカットインで先手を取った大同に対し、日新も森のサイド上がりで応戦。10分過ぎにはハーフマンツー気味につく大同ディフェンスを振り切っての西山の連続ゴールが決まり、4－5と大同にリードを許していたものの、日新ペースで試合が進んでいた。

しかし、大同はエース・蒲生の的確なリードが光ってすぐさま主導権を奪い返し、新鋭アタッカー・田口の右腕も冴えて20分8－4とリード。22、23分と連続してPTを日新GK・西川に阻まれ、さらに蒲生が腰を痛めてベンチに退いたピンチも、逆に浦田、田中の活躍とGK・上村の絶妙のキーピングで日新の反撃ムードに水を差し、12－5と大量リードを奪って前半を折り返した。

後半、日新の反撃が期待されたが、大同は蒲生が大活躍を見せ、12分過ぎには18－7として試合の大勢を決めた。終盤に到ってようやく日新の思い切りのいいシュートが見え始めたが、ディフェンスの荒さが致命的、予想外の大差で大同が完勝した。

なお、この試合で第1回リーグから連続試合得点の記録を続けていた日新・徳田は、3本のシュートを失敗、遂にこの大記録にストップをかけられた。ここで第1回からの連続試合得点の記録保持者は湧永製薬の山本伸二ただ1人となった。

第2週第1日

▽6月19日（土）知多市体育館（愛知）

大同特殊鋼　27（15－8、12－3）11　大阪イーグルス
（3勝）　　　（2敗）

○……前半5分、イーグルスの左腕・辻本が左45度からロングを決めて2－2としたあたりまでは好ゲームを期待されたが、イーグルスはこのあとがいけない。大同の前につめるディフェンスのプレッシャーを受けるとセットでの速い動きがつぶされてしまうようになり、23分まで約20分間ノーゴールの拙攻。

大同は、エース・蒲生を密着マークされたものの、中本のポスト、柳川の速攻などで7連続得点、23分に9－2とした。その後もPTでイーグルスに3点目を許したものの、若い田口のケレン味のないロングなどで加点、前半を12－3として大勢を決した。

イーグルスは、若手主体のチームへ切りかえる過渡期のシーズンということもあってゲーム運びに甘さがある。辻本、成願、勝本らがガムシャラに打っていく姿は好感が持てるが、余裕を見せてディフェンスする大同にあしらわれた形でかわされる場面がしばしば。苦しいシーズンになりそうだ。

第2週第2日

▽6月20日（日）神戸市立中央体育館（兵庫）

『ハンドボール』

57年7月号（第209号）目次

【表紙写真】立石電機に加入したユーゴからの"助っ人"カーヤの力強いシュート

スポーツイベント社提供

大崎電気 20（8－8 12－11）19 大阪イーグルス
（1勝2敗）（3敗）

〇……終了15秒前に松岡のサイドシュートで大崎電気が競り勝ち大熱戦に終止符を打つとともに初白星を記録した。

開始早々、長野のミドルで先行した大崎に対し、イーグルスも辻本の個人技で反撃、この両左腕の打ち合いで前半は8－8と全くの互角だった。後半に入るとやや大崎が押し気味となり、斎藤らの活躍で15分過ぎに2点差のリードを奪ったが、イーグルスは大崎・長野の退場の隙をついて一気に逆襲。源野、大西らのたて続けの速攻で15－13と試合をひっくり返した。

これで流れはイーグルスに傾いたかに見えたが、残り4分、大崎は速攻からPTをものにした斎藤が自らこれを決めて18－18の同点、イーグルス・杉尾の速攻を許して再度1点差のアヘッドを背負ったものの、東江が左サイドから気迫のシュートを放って19－19のタイスコアに戻し、劇的な松岡の決勝ゴールを呼び込んだ。

▽同・大分県立総合体育館（大分）

湧永製薬 24（9－9 15－10）19 日新製鋼
（2勝）（2敗）

〇……前半はPTを含む4ゴールを記録した新人・西山の活躍で日新が優勢に試合を進めていたが湧永は前半終了間ぎわにベテラン穂積が巧みなブラインドシュートを決めて9－9の同点とし、後半5分過ぎから松本、池ノ上のたたみかけるようなシュートで一気にエンジンを全開させ、15分には18－12と完全に主導権を握った。

後半5分過ぎまでは湧永を上回るデキを示していた日新だっただけに、この10分間の拙守拙攻があまりに痛い。終盤、脇若、森、高木らで懸命に追い上げたが、5点差としたところでタイムアップ。今ひとつ調子の波に乗れない湧永だったが、穂積、松本らが勝負所でベテランの味をいかんなく発揮させ、試合運びの巧さで若い日新の気迫を封じ込んだ一戦だった。

湧永×本田戦。湧永・穂積のシュート

第3週第1日

▽6月26日（土） 四日市市体育館（三重）

湧永製薬 24（10－5 14－9）14 本田技研鈴鹿
（3勝）（1勝1敗）

〇……湧永は池ノ上のステップアンダーシュート、生駒の力強いミドル、山本の速攻でいきなり3点連取して早々と主導権を握り、GK・井藤の好守も光って10分過ぎに4－1とリード。一方の本田も井藤に猛烈なライバル意識を持つGK・大畑が、続けざまに湧永のノーマークシュートをシャットアウトしてペースを盛り返し、坂本のサイド上がりのミドル、粟屋のポストシュートで3－4と肉薄、同点から逆転への夢をふくらませた。

しかし、湧永はこの場面から津川、穂積のベテラン勢を投入して攻守を引き締めて再スパート。志賀のロング、津川の速攻で6－3、本田も長野、三本松で必死に追いすがるが、残り3分を切って湧永は山本に代わって出場した戸田のリバウンドシュートが引き金となり、松本、志賀の速攻と続き、あっという間に5点の差をつけて前半を折り返した。互角に打ち合っていた本田だったが、ちょっとした乱れを巧みにつく湧永のベテラン勢の巧技に加え、新鋭GK・井藤の堅守にしてやられた感じだった。

後半に入っても5分過ぎまでは両チーム活発な打ち合いで場内が沸いたが、気迫あふれるディフェンスを展開する湧永は、本田に連続ゴールを許さず、逆に7分から12分、15分から19分と2度にわたって4連続ゴールを成功、本田の追撃をピシャリと断ち切って危げなく3勝目を記録した。

若いメンバーで固めた本田は、勝負所で若さを露呈、イージーミスが全て失点につながった格好でGK・大畑の再三のファインプレーを生かすことが出来なかった。

第3週第2日

▽6月27日（日） 京都府立体育館（京都）

大同特殊鋼 22（9－7 13－8）15 本田技研鈴鹿
（4勝）（1勝2敗）

〇……守っては蒲生のDTを阻んだ大畑の活躍、攻めては猪野、長野、粟屋といったヤングパワーのハツラツとした働きで12分5－2と優位に立っていた本田技研、昨年の前期でこの大同から金星をもぎとったシーンの再現から思われた。

しかし、ベテラン花輪を起用して建て直しを計った大同は、蒲生のロングとPT、ハーフ速攻から果敢に切り込んだ柳川の好シュートであっさりと同点に追いつき、その後はヤングアタッカー・田口の豪快なロング、リバウンドボールを粘ってねじ込んだ中本の闘志あふれるプレー、さらには小兵・大原のダイナミックな速攻などで9－7と前半を制した。

大同に自信を持つ本田は、猪野のミドルや長野のカットインで必死に食い下がっていたが、単発な動きからのシュートが多く、大同GK・上村が次第に調子を上げたこともあって、ズルズルと大同のペースにはまり込んでいった。

後半、激しいディフェンスで6分10－12と食い下がっていたあたりまでは、本田の逆転も十分に期待されたが、大同のノーマーク速

攻を大畑が見事に阻んだのもつかの間、浦田のカットインでPTを奪われ、さらには田口にフリースローを打ち込まれて4点差。このあと佐々木のポストシュートで反撃したものの、ミスが続いて大同に連続ゴールを許し、2本のPTを阻んだ大畑の起美守も試合の流れを変えられなかった。終盤、大同は蒲生、田口の強打、大原の鋭い突進などで着実に追加点をものにして22―15と完勝、貫禄を見せつけた。

なお、この試合で大同のエース蒲生は、PT3ゴールを含む9ゴールを叩き出し、前人未踏の50ゴールにあと16と迫った。

▽同・栃木市総合体育館（栃木）

日新製鋼 29（13―9, 16―7）16 大崎電気
（1勝2敗）（1勝3敗）

○……順位争いを考えると両者ともに大事な試合だったが、この日の大崎は少しおかしかった。走りを身上とする大崎の足が動かなかったのだから、試合の結果は見えていたといっていい。

試合は立ち上がりから日新ペース。1分も経過しないうちに高木が、うまくディフェンスの間を割って先取点。その後も西山、高木と着々と点を加えた。大崎はローリングしながらチャンスをつかもうとするのだが、その動きが日新ディフェンスにピタリピタリと合わされてどうも苦しい。長野のラップシュートや斎藤のミドルもディフェンスの手に当てられて点が奪えず、8分斎藤で1点を決めた時には、すでに日新は5点、18分に大崎が2点目を松岡で決めた時には、もう日新は13点目を加えているといった調子で、点差は開く一方。

後半に入って、大崎は東江の速攻などでようやく大崎らしい走りを見せて追い上げたが、燃え始めるのがどうにも遅かった。

▽同・大阪市中央体育館（大阪）

湧永製薬 29（15―8, 14―8）16 大阪イーグルス
（4勝）（4敗）

○……先行したのはイーグルス。源野のロングでいきなり1―0。だが、地力に勝るのはやっぱり湧永。3分山本、4分松本のシュートであっさり逆転してみせた。だがイーグルスもエース・辻本を中心によく頑張る。全員が教員という顔ぶれのイーグルス、地元のゲームということで教え子たちの声援がある。そう簡単には引き下がれないのだ。源野、辻本、大西らの活躍でイーグルスも互角に打ち合ったが、湧永は前半なかばすぎから山本、池ノ上らを中心にチームワークよく、さまざまな角度から打って出て前半14―8、主導権を握った。

後半は、イーグルスが千野で9―14として意地を見せる。しかし湧永はおちついたプレーで4分の池ノ上のロングを皮切りに速攻を次々と決めるパターン。一気にイーグルスを突き放した。イーグルスは再三のチャンスを湧永GK・井藤に阻まれ、それを速攻につながれたことで、さらに傷口を広げる結果となった。

第4週第2日

▽7月4日（日）岐阜県民体育館（岐阜）

日新製鋼 27（11―8, 16―9）17 大阪イーグルス
（2勝2敗）（5敗）

○……開始直後からイーグルスが日新の新人アタッカー・西山、そしてゲームメーカー・脇若をダブルマンツーする奇襲作戦。しかし、日新はイーグルスのディフェンスの薄さをついて高木が3分で3ゴールもぎとり、日新ペースで試合が進んだ。

後半、イーグルスのディフェンスは西山のマンツーだけにかえ、ディフェンスの層を厚くしたが、身長、体力にまさる日新が力でイーグルスを降した。

日新・西山は、マンツーされながらもスキをついて加点、このゲーム5得点をマークした。イーグルスでは、後半起用されたGK・信貴が再三にわたる好守で観衆を

日新×大崎戦。日新の若きエース・西山のシュート

練習が技術をつちかい
技術が信頼を支える

きょうの反省を、あすの練習に、試合に結びつける……スポーツマンにとって、大切な心がまえです。常により高度な技術をめざしてチャレンジする——それはブラザーが目ざしているものと一致します。技術がチームメートの信頼を支えるように、お客さまの信頼に応えるのは、高度な技術に支えられた品質以外にないのですから——。

BROTHER
ブラザー

ブラザー工業株式会社
ブラザーミシン販売株式会社

沸かせた。また、この試合は両チームで7人の退場者を出す荒っぽいゲームだった。

▽同・鐘山スポーツセンター（山梨）

大崎電気 24（13―11、11―8）19 本田技研鈴鹿
（2勝3敗）（1勝3敗）

○……今シーズンから思い切って若手に切りかえた本田は、攻防ともにチグハグなまま一試合を終えてしまった。

立ち上がりの5分間は、両者が探り合いのパス回しに徹し、息づまるような展開だったが、5分、本田の長野がロングをビシリと打ちおろすと、がぜん活発な動きになった。今度は大崎の長野がポストで、一度行き過ぎたように見せかけて一歩戻ってパスをもらうという巧い動きで1―1。さらに斎藤が中央からのロング、東江が速攻を決めて3―1と逆転した。

木田も猪野のロングを軸に頑張るのだが、攻撃の組み立てが個々のプレーに頼りすぎてコンビにならない。また、ディフェンスも縦へのツメは良いのだが、横の動きが悪く、チェンジ、フォローが出来ず棒立ちの場面が多く見られた。とくに大崎はワンクロスの組み合わせで攻撃を作り、相手ディフェンスを横にゆさぶる戦法のため、本田にとっては苦しい試合となった。

大崎5―4の15分から、大崎は東江の右サイド、東江から長野のスカイ、斎藤の中央からの飛び込み、東江と長野のワンクロスで一気に4点連取、ますます波に乗った。本田は、長野がフローターの時は長野に、長野がポストに入れば斎藤に密着マークに行くという変則ディフェンスでリズムを変えようとするがうまくゆかず、なかなか反撃の糸口をつかめないまま3点差をつけられてハーフタイムを迎えてしまった。

前半の3点差では本田にもまだまだチャンスはあるといえたのだが、大崎は後半に入るやいきなり中央から長野がステップを打ちこんで、不安を吹きとばす。

大崎は、ワンクロスするとそのまたうしろをさらにもう一人が走るパターンで、とくにその二番目のプレーヤーでチャンスを多く作った。若い本田の猪野のポジションをその攻撃で攻め、リードを守り切る。猪野は守りで疲れる分だけ、攻撃にもうひとつ力を出せないまま時間がたっていく。本田はたまりかねて猪野をディフェンスからはずし、攻撃一本に参加させる。これでようやく猪野にも当たりが見えてきたのだが、本田は失点を抑えられなくては、どうにも手の打ちようがない。本田の名手GK・大畑も、ディフェンスとのコンビがとれなくては苦しい。大崎のGK・岡部が当たりに当たったのとは対称的に大畑は試合後もションボリ。

こうして、大崎は立ち上がりのリードから一度も同点に追いつかれないまま24―19と快勝、前期を「スッキリ」した形で折り返した。

大崎×本田戦。今シーズン一部復帰の大崎，見事本田を破る

第5週第1日

▽7月10日（土）広島県体育館（広島）

大同特殊鋼 20（12―8、8―9）17 湧永製薬
（5勝）（4勝1敗）

○……昨年、全日本実業団、国体、全日本総合と三大タイトルを手中にしながら、この日本リーグで大同特殊鋼に苦杯をなめていた湧永製薬。「今年こそ四冠王を」を合言葉に旺盛な意欲を示し、5月の全日本実業団でも20―9と予想外の大差をつけて大同に圧勝、今リーグに入っても大同が緒戦の大崎戦に土壇場まで追いつめられるなど苦戦を強いられたのに対し湧永の過去4試合の安定した戦いぶりは際立っており、"湧永有利"は動かせないところだった。

しかし、戦前の予想通りにいかないのがこの両者の対決。大同は今リーグに入って主砲・蒲生が右肩を痛め、右手親指のツメをはがして精彩を欠いた全日本実業団の二の舞いかと思われたが、チャンスメーカーとなって若手アタッカー・田口をいかんなく発揮させ、大原、柳川らの持ち味も生きた。湧永は、上村を軸とする大同の気迫あふれるディフェンスの前に次第に焦りの色が目立ち始め、痛いところでミスを連続しては花輪、蒲生のPTやポストシュートにつなげられ、17―20と大同の逃げ切りを許す結果となった。

湧永は、昨年同様またも前期最終戦を落とし、大同を追う形での折り返し。田口、田中、GK・上村という若手を積極的に起用した大同は「まだまだ70点の出来。もろ少しコンビネーションの練習を積まねばならないし、後期も湧永の胸を借りて思い切りプレーする姿勢は変わらない」と、野田監督の表情は、会心の笑みの中にも後期に向けてのファイトがありありとうかがえた。5年連続6回目の優勝には、この湧永戦の勝利は絶

対不可決といえ、正念場で底力を発揮させた大同の執念は、さすがとしかいいようがなかった。

また大同の蒲生は、この日3PTを含む4ゴール。500ゴールまであと「12」と迫った。

第5週第2日

▽7月11日(日)長岡厚生会館(新潟)

本田技研鈴鹿 24(13-11, 11-10)23 日新製鋼
(2勝3敗)　(2勝3敗)

○……日新・西山、本田・猪野今春から加入のルーキーで、二人とも全日本で期待される若手選手だ。

この二人のロングシューターの対決が注目されるゲームだったが、本田はスタートから日新の西山を密着マーク、三本松がピタリと西山にくっついて離れず、西山の力を出させない作戦に出た。

結果的には、この本田の作戦が日新のコンビネーションを崩し、功を奏することになる。

先取点は日新。フリースローから西山が豪快に打ち込んだものだ。フリースローの時には、相手側の選手は3メートル離れていなければならないので、西山をマークする三本松もついていくことが出来なかった。この得点が立ち上がりの2分のこと。とたんに、本田・猪野が中央から打ちおろして1-1。〝打ち合い〟の口火を切った。

前半はお互いに打っては打ち返し、追いつ追われつの白熱戦を展開、前半残り1分、本田・佐々木がポストシュートを決め、11-10と1点のリードを奪ってハーフタイムへ。

後半に入ってもシーソーゲームは続き、本田が尾上、猪野のサイドシュートやスタンディングシュートで14-11とすれば、日新も速攻で徳田が連取、さらに藤井、西山が点を重ねて15-14と逆転。21分までに本田が長野のロングなどで22-20と優位に立てば、日新はPTを誘って応戦、これを西山が決めて再び22-22の同点。最後まで試合の行く方は分からない。

本田はこの22-22になる攻防の間にPTをはずすなど旗色が悪かったが、猪野のロングで23-22。日新・西山の速攻で23-23となったあとの終了間ぎわ「引き分け」の声も聞かれ始めたとたんに、本田・三本松が左45度からフェイントで飛びこみ鮮かな決勝ゴールを叩き込んだ。

大同×湧永戦。大同が執念を見せ，逆転で勝利を握る

女子

第1週第1日

▽6月12日(土)岩井市市民総合体育館(茨城)

大崎電気 24(14-10, 10-8)18 日本ビクター
(1勝)　(1敗)

○……初日ということもあって、両軍固い出足で5分間を過ごしたが、大崎が、李相玉、李京姫の外人コンビを投入するあたりから活気が出た。

先取点は5分、ビクター岩城の右サイド攻撃。大崎も李京姫が左サイドの無角度からスピンの利いたバウンズシュートで返して1-1。前半は大崎が押しぎみの展開ながらビクターも志村がフリースローからのジャンプシュートでよく返して、大崎の10-8と2点差の好ゲーム。

ところが後半に入ると、ビクターのディフェンスの帰りが遅くなった。大崎は西、陽田の速攻で点を重ね、8分には15-10として、試合を決めたかに見えた。

ビクターは起死回生の作戦。新人・武藤の投入。この作戦がピタリ。この武藤がたてつづけにロングを突きさし、ビクターの反撃に火がつき、12分の池田のPTまで、4連続得点、一気に14-15の一点差にまで追い上げた。だが、ころいろ場面で活躍するのが大崎の助っ人・李相玉。ワンフェイントからのジャンプでのロングを決めて16-14、さらに今度はポストの徳渕へ好パスを入れて17-14と突き放してしまう。

ビクターはこの場面の同点機で「もう一本」が出なかったのが痛く、ついに力尽きた。

第1週第2日

▽6月13日(日)高松市市民文化センター別館(香川)

ジャスコ 23(13-8, 10-8)16 ブラザー工業
(1勝)　(1敗)

○……ジャスコの3点リードで終わるかと思われた前半だったが、残り2分、ブラザーは植田のシュートで2点差に追い上げて前半終了。

後半に入っての立ち上がり、ブラザーにチャンスが訪れた。ブラザーはロングシューターの杏原が、打つと見せかけてポストの則武にパスを送ってPTを誘った。このPTをペナルティスロアー左腕・小野島が決めて1点差とし、押しぎみの展開。さらに続けて植田の速攻でPTを誘って同点機をつかんだ。ところが、このPTを

小野島が、今度ははずしてしまう。この同点機を逸したことが、このゲームの分かれ目になる。

直後、逆にジャスコが松岡の速攻で右サイドを攻めてPTを誘う。このPTを辻木がなんなく決め、2点差をキープ。このキーポイントでのPTの成否が、結果的にはゲームの明暗を分けた。

このあと両チームとも、互角に得点を繰り返したが、15分過ぎからジャスコが速攻、セットでの粘り強いボールキープから着々と加点、リードを広げにかかる。ブラザーはエース杏原のロングがもうひとつ決まらず苦戦、守勢に回る一方となった。

ジャスコは横山のリードから辻本、寺沢の多彩な攻撃、GK矢部の攻守で、集中得点、予想外の大差で初戦を飾った。

▽同・朝霞市立総合体育館（埼玉）

大崎電気（2勝） 29（14―10／15―6）16 北国銀行（1敗）

○……大崎はシュートをパシンと止めて、これを持ちこんだ石井が決めて先行、その後も固いディフェンスから、北国の攻めを封じては速攻に持ちこんで得点を重ねた。

大崎は主力メンバーをとっかえひっかえベンチとコートを往復させる余裕の試合展開で点差を広げていった。

大崎×北国戦。大崎が前半からスパート，大差で勝つ

北国は大崎の前へつめてくるディフェンスのプレッシャーに耐えきれず、ミスを連発してしまった。このミスを拾われ速攻につながれるという悪いパターン。散発的にシュートを打つのが精一杯の状態だった。

そんな中で北国のエース左腕・八木は奮闘、11得点をあげる活躍で、ひとり気を吐いた。

▽同・市川市運動公園体育館（千葉）

大和銀行（1勝） 19（12―7／7―11）18 日立栃木（1敗）

○……大変な新人が現われたものだ。後半16分に18―13とリードを奪っていた日立が、そのまま逃げ切るかに見えたが、大和の新人・若水（夙川学院高）が驚異の大活躍、浮き足立った日立ディフェンスをカク乱しては果敢な突進で立て続けにゴールを決め、終了30秒前のこの日7ゴール目の速攻シュートが決勝点となって鮮やかな大逆転勝利を大和にもたらせた。

3年ぶりの一部返り咲きを果たした大和銀行はスタートから意欲的に飛ばして日立栃木と互角の試合を展開。しかし、日立のGK陣の活躍の前に、最後のシュートの詰めが甘くなり、7―11と4点差のリードを奪われて前半を折り返した。日立は、前半なかばから、ベテラン大輪、ヒザの故障から再起を図ったエース水上を投入したことで攻守にリズムが生まれ、前田、大高のアタッカー陣が確実にゴールをものにして好ペースで試合を運んでいた。

後半も、栗原、大輪の活躍で日立がガッチリと主導権をキープ。たまらず大和は日立のポイントゲッター前田にマンツーを当てる捨て身の作戦に出たが後半16分18―13と点差は縮まらず、試合の大勢は決まったかに見えた。

ところが、ここから大和の大逆襲が始まった。若水の速攻で反撃ののろしを上げ、さらに秋成のカットインで得たPTを川添が決めて3点差。日立は5点差をつけたところで大和のゲームメーカー秋成をマンツーする堅い作戦に出たのだが完全にこれが裏目。ディフェンス陣が棒立ちの状態で、若水の鋭いフェイントワークにふり回され、攻撃にも積極性を失って大和ディフェンスに甘いパスを、再三インターセプトされた。

若水の連続ゴールで残り7分17―18と1点差とした大和は、同点のPTを秋成がはずしたものの、その直後に日立も前田がPTを失敗、完全に流れは大和の逆点劇に傾むいていた。

館内の大声援は大和・若水に集中。若水がボールを持てば、「何かをしでかすのでは」の期待が悲鳴を生む。またそれに応えてゴールに結びつけるのだから、この156cmの小柄な新人は大したものだ。

若水は残り3分、抜群のフェイントワークで日立ゴールを崩して同点ゴール、さらに残り30秒、パスカットからボールを受けて真一文字に走り込み、劇的な逆点ゴールに成功、大和に貴重な一勝をもたらした。大和が日本リーグで北国、ムネカタ以外に勝ったのは初めて、一部復帰後の最初のゲームに幸先よい白星を飾っただけに、今後の活躍も大いに期待できよう。

第2週第1日

▽6月19日（土）知多市体育館（愛知）

ブラザー工業（1勝1敗） 26（11―11／15―4）15 日立栃木（2敗）

○……第1週でジャスコに敗れているブラザー、同じく大和銀行に予想外の1敗を喫している日立の対戦。どちらも、このゲームで片目をあけて勢いに乗りたいところ。

だが、日立は主力の水上、手打、山本がケガで戦列を離れているだけに苦しい。立ち上がり地元の声援を背に走り回るブラザーに押され、前半で4―15と大差をつけられてしまった。

ブラザーはGK屋比久、FP杏

原、竹内、則武、増永、植田、尾崎の布陣で日立の甘いパスをインターセプト、またGK屋比久の好捕から次々と得意の速攻展開に持ちこみ着々とリードを広げた。
後半に入って、ブラザーは塩屋や中村らをコートに立たせる余裕を見せたが、さすがに日立にも意地がある。水上をディフェンス用員としてコートに出して建て直しを図る。同時に若い吉田や前田に打っていかせて後半11－11と互角の展開を示した。

ジャスコ×日立栃木戦。ジャスコのエース・寺沢のシュート

それでも前半のアヘッドは大きく、日立は苦しい2敗目。ブラザーは快勝といえたが、お家芸の速攻で点を取れる時は良いとして、セットに入った時の展開にもうひと工夫が欲しいところだ。

第2週第2日

▽6月20日（日）神戸市立中央体育館（兵庫）
ジャスコ 24（15－6，9－12）18 日立栃木
（2勝）（3敗）

○……立ち上がり両チームとも激しいディフェンスの応酬で5分間ノーゴール。このこう着状態を抜け出したのが日立で、5分に前田、7分には大高がジャスコディフェンスの壁を突破、2－0と先行した。
日立とすればここで一気に突き放したかったところ。しかし、速攻、セットとも一枚上手のジャスコは、重村の速攻で同点に追いつき、その後も辻本のステップ、ロング、寺沢のPTなど、速攻展開から次々と日立ゴールに襲いかかり、15－6と大きく水をあけて前半を折り返した。
後半、日立は速攻を中心に激しく反撃、残り10分3点差までつめ寄ったが、ジャスコは松岡のスカイプレーで日立の反撃ムードに水を差し、そのまま追加点を積み上げて6点差で逃げ切った。日立は前田が7ゴールを奪う活躍などで後半は押し気味だったが、前半の失点はあまりに大きかった。

▽同・大分県立総合体育館（大分）
立石電機 27（15－5，12－7）12 大和銀行
（1勝）（1勝1敗）

○……前週で日立栃木に鮮やかな逆転勝利を収めた大和銀行が、三連覇を目指す立石電機にいかに食い下がるか注目の一戦。開始早々、大和は若杉の速攻からのサイドシュートに続き、4分には川添秋成のミドルシュートが決まって3－0と好スタート、調子の波に乗っている大和らしい先制攻撃だった。
しかし、立石が木下の2本のPT、岩村のミドルで3－3としたあと、14分過ぎに大和GK・春口の前のツメを見た桑原のうかしシュートで逆転に成功してからは一方的な立石ペースとなり、16分岩村のミドル、17分木下のロング、羽立の巧技で4点差がついた。一方の大和は開始早々の3ゴールから18分に秋成のカットインシュートが決まるまで凡失を繰り返して完全に沈黙、速攻、セットともに余裕の出た立石に押しまくられ12－7と前半で大きく立石に差をつけられた。
後半、立石・木下のミドルが決まったあと、大和は日立戦で大活躍した新人・若水が連攻ゴールを成功させて追撃が期待されたが、試合巧者・立石の多彩な攻撃にほんろうされ、立石を脅かすまでには至らなかった。立石は前半、「若手があまり固くなりすぎて」（井監督）大和の先制パンチを受けたが、ペースを取り戻してからは、余裕あふれる攻防で全く大和を寄せつけず、貫禄を示した一戦だった。

第3週第1日

▽6月26日（土）四日市市体育館

フットワークはフォーメーションから生まれます。
だれが駆けても、

シティは、スポーツマン。

ライヴ・ビークル
「シティ」

HONDA®

シティのいちばんライヴな遊び友だちです。
トランクをガレージにしてしまった、
モトコンポは、トラバイ(トランクバイク)。

モトコンポ

（三重）

ジャスコ 36（15―5 21―4）9 北国銀行
（3勝）（2敗）

○……ジャスコの一方勝ちだった。ジャスコは、北国のミスにつけ込んで立ち上がりから得意の速攻を連発させ、10分までに寺沢、松岡らで9―0と北国を圧倒、その後も北国は単調な攻撃が続いてミスも多く、ジャスコのワンサイドゲームとなった。

前半で21―5と大きく水をあけたジャスコは、メンバーを次々と交代させる余裕のゲーム運び。GK・矢部からのワンパス速攻や、寺沢、重村のシャープな攻撃が冴え、左腕エース・八木の攻撃力だけに頼る北国につけ入るスキを与えなかった。好調な攻撃ペースが続いただけに、最多得点のリーグ新記録が誕生するかに見えたが、終盤に入ってシュートミスが続いてペースダウン、36得点のタイ記録にとどまった。

また、速攻の先兵役で走りまくった松岡と重村は、ともにフィールドゴール9点のリーグタイ記録を樹立、シュート率争いのダークホース的存在にのし上がってきた感じだ。

立石×北国戦。立石のユーゴからの"助っ人"カーヤの豪快なシュート

第3週第2日

▽6月27日（日）京都府立体育館（京都）

立石電機 31（14―7 17―7）14 北国銀行
（2勝）（3敗）

○……いよいよユーゴからの強力外人コンビ、カティツァ・イレシュ（愛称カーヤ）、ベリツァ・ドルヴェニヤク（愛称ベーラ）の初登場。2、3日前から風邪で体調を崩していたベーラは、5分間ほどの出場だったが、モスクワの〝銀メダルキャプテン〟カーヤはスタートからフル出場して6ゴールを奪う大活躍、本場ヨーロッパのパワーと高さを見せつけて場内のタメ息を誘った。

ユーゴナショナルで201回の公式国際試合出場という大変なキャリアを誇るカーヤの身上はポストプレーだった。北国のディフェンス陣からゆうに頭ひとつ飛び出した178㎝の長身をフルに生かし、ボールが入れば身体をあずけるようにしてなだれ込むターンシュートで次々と北国ゴールに襲いかかった。3分の初シュートはゴール右すみのバーに当てて失敗したものの、6分にサイドからのパスを受けて中央から倒れ込んで〝日本初ゴール〟をあっさりと成功、その後は「ボールを持てば1点」という感じのこのポストプレーに加え時折りフローターの位置に浮いてからのステップシュートなどで6ゴール、ディフェンスでもデンと中央にそびえ立って北国のロングシュートを次々とはたき落とし、絶妙なインターセプトも再三披露して〝さすが本当のホンモノ〟とつめかけた3千人の大観衆をうならせた。

試合は、立ち上がりから一方的な立石のペース。GK・井村からのロングパス速攻、素早いパス展開からの速攻を連発させて20分までに15―1と大きく差が開いた。一方の北国も、若手にメンバーを切りかえた立石にミスが出たところをついて八木、藤田の活躍で5ゴール連取するなど反撃を開始、後半も丸山、小玉といったヤングが頑張って気迫あふれるプレーを見せたが、試合の大勢には影響がなく、31―14で立石の完勝に終わった。

▽同・栃木市総合体育館（栃木）

日立栃木 14（7―8 7―5）13 日本ビクター
（1勝3敗）（2敗）

○……志村のPTで先取点を奪ったビクターが追いすがる日立を1点差、2点差でかわしながら逃げる展開になった。

前半中盤は全くの一進一退だったが、ビクターはルーキー武藤をコートに送って、これが当たり、武藤の連取で21分8―6。ペースをつかみかけたのだが前半残り20秒に日立は前田が打ちこんで、また1点差をキープ、両チームの応援団の歓声の中でハーフタイムを迎えた。

後半に入ってビクターがスパート、中根、岩城、池田（PT）で5分までに3点を加え一気に4点

差とした。この差は大きいと思われたのだが、日立はあわてなかった。大輪が味のあるプレーで点を取ると、若い前田、ベテラン水上が続いて、再び1点差に迫い上げた。日立にとっては、この日から水上が足の故障から立ち直ってフル出場していたのが、ディフェンスに落ちつきを与えていた。

14分、その水上がフェイントから飛びこんでついに同点。ビクターも志村で返すが、日立は大輪で再び同点、続いて小根沢が逆転シュートを22分に放ち、結局これが決勝点になった。

日立は、その後の7分間を固いディフェンスとGK・寺沢の美技で守りぬいて片目をあけた。

ビクターは後半の12分と25分に2本のPTを失敗したのが敗因のひとつになった。

▽同・大阪市中央体育館（大阪）

大崎電気 27（15－6 12－9）15 大和銀行
（3勝）（1勝2敗）

○……今シーズン、すでに2勝をあげて波に乗る大崎に大和が挑戦。大和も今リーグ初戦で日立栃木を破るなど昇り調子にある。しかも大和は地元ということもありその頑張りに期待が持たれた。

スタート直後、大和は川添のミドルで先行、大崎もすぐさま李相玉がスパッとディフェンスの間を割るステップシュートで同点。6分には大和・若水が、大崎のミスを拾って独走、1点リードするなど、前半10分までは両者いい面を出し合って好ゲームとなった。

だが、10分を過ぎてから大和はディフェンスで徐々に押され始めた。それもこれも大崎がパス回しを早くして、大和ディフェンスを振り回す作戦に出たため。とくに李コンビや西のパスワークが素晴しく大和はディフェンスをするのがやっと、攻撃に移る時には、もう集中力が切れている状態といって良かった。それでも前半は大和・川添、若水の活躍があって大崎の12－9、大和にもまだ望みがあった。

後半に入ると大崎がスパート、李相玉のロング、西のカットイン、PTなどで一気に差を開いた。その後も、大和は攻撃に移るとミスが出るパターン、そのミスを大崎は次々と速攻につないで27－15と大差のゲームとした。

大和は、ディフェンスで精神力を使い果たし、攻撃に移った時に全く自分のゲームをできなかったのが敗因。

大崎の西はエースの貫禄を見せ9得点、通算（日本リーグ）190ゴール、200ゴールの大台へあと10点と迫った。

第4週第2日

▽7月4日（日）岐阜県民体育館（岐阜）

ブラザー工業 33（21－10 12－6）16 北国銀行
（2勝1敗）（4敗）

○……前半立ち上がり20秒、いきなりブラザー・杏原の強烈なジャンプシュートで始まった。

ブラザーはこの杏原、増永のコンビで着々と加点、北国は攻撃が単調で、なかなかブラザー陣内に入れず、パスワークも乱れて前半はいいところがなかった。

ブラザーは杏原、増永に加えて則武、竹内がよく走り、速攻に次ぐ速攻で点差を広げ、後半も一方的なペース。北国も前半調子のでなかった八木にやっとエンジンがかかって打ちまくったものの、点差は開くばかりだった。

しかし、ブラザーは杏原・増永の8得点、則武の6得点と点数は取っているものの、打てるチャンスに打てない場面がしばしば見られ、完調にはあと一歩。北国では八木、竹の頑張りとGK辻の好守が目立った一戦だった。

▽同・鐘山スポーツセンター（山梨）

立石電機 24（13－9 11－8）17 日本ビクター
（3勝）（3敗）

○……女子の部では前期の最終日。まだ勝ち星のないビクターは旺盛な気力で挑んだ。GK渡辺が再三、立石のノーマークシュートを阻んでビクターをもりたてると、志村のカットイン、高光の速攻などでペナルティースローを連続して誘い、10分、3－3、15分でも4－5と、よく立石についていった。

立石は、ユーゴからの外人プレーヤーを加入させての2試合目。この試合ではスタートからイレシュ、ドルヴェニヤクの二人をコートに登場させた。

イレシュはポスト、左腕ドルヴェニヤクは右45度を攻めたが、立石全体のコンビは、二人が入団してからの時間が少ないためかまだまだ、前半は攻撃が嚙みあわず苦しんだ。

それでもイレシュの的確なディフェンスの指示で、守りを固め直して、前半終盤に速攻のリズムをつかんだ。さらに木下のステップからのアンダーシュートが続けて決まって、やっと11－8と均衡を脱け出した。

後半に入ると立石はドルヴェニヤクのステップシュートを皮切りにスパートをかけ、薮田のパスカット、GK井村の好守などから次々と速攻を仕かけ、7分までに5点連取、16－8と差を広げて主導権。

その後はビクターのしぶといカットイン攻撃に再三PTを許したものの「取られても取り返す」勝ちパターンで、3勝目をあげて前期を終えた。

日本リーグ二部

＜男子＞

▽6月12日（土）ジャスコ体育館（三重）

中村荷役 34（18 16—12 8）20 セントラル自動車
（1勝）　（1敗）

○……前半立ち上がり3—1と好調なスタートを切ったセントラルだが、中村は西窪らの個人技でジリジリと加点、10分過ぎに5—5と同点としたあとペースをつかんで16—8前半を終了。後半に入ってもセントラルは中村の高いディフェンスの壁に阻まれて苦戦を余儀なくされた。

大阪ガス 25（12 13—13 12）25 トヨタ車体
（1分）　（1分）

○……大阪ガスはGKの好守を速攻に結びつけてトヨタに食い下がり、岩本、中村の好シュートが光って終始好調にペースを握っていた。しかし、トヨタもしぶとく粘り、終了直前、サイドシュートのリバウンドをねじ込んで同点に持ち込み、辛うじて敗戦を逸れた。双方ともスピードのあふれた内容の濃い一戦だった。

三　景 28（13 15—10 10）20 日鉄建材
（1勝）　（1敗）

○……前半両チームともディフェンスが弱く、点の取り合いのゲームとなったが、中盤からGK・野田の活躍が目立った三景が混戦を抜け出した。後半、日鉄もよく動き18分過ぎに同点とするものの三景・奥村らの攻撃が冴え、中盤以降日鉄の疲れをつき速攻でたたみかけて勝負を決めた。

▽6月13日（日）ジャスコ体育館（三重）

三陽商会 36（17 19—10 8）18 セントラル自動車
（1勝）　（2敗）

○……立ち上がり12分まで5—5と互角の試合だったが、三陽は12分6—5と抜け出て、田口、関らで3点連取、15分過ぎには7点連取してセントラルを突き放し、一方的なゲームとした。攻撃にキメ手を欠くセントラルは、無理な体勢からのシュートを連発、三陽の逆速攻を受けて傷口を広げた。

トヨタ車体 27（14 13—10 10）20 日鉄建材
（1勝1分）　（2敗）

○……互角の両チーム、抜き出たのがトヨタで、中島、浜口らの活躍で13—10と前半リード。後半、日鉄は池辺の連続ゴールで必死の追い上げ、三たび1点差とつめよったが、残り10分を切るとその追撃ペースが鈍り、攻めあぐむ間にトヨタに一気にたたみ込まれて突き放された。

三　景 22（13 9—12 8）20 大阪ガス
（2勝）　（1分1敗）

○……前半、中馬、地主園らの気迫あふれるプレーで先行した三景だが、必死に粘る大阪ガスに点差を開けることが出来ず、終盤までクロスゲームが続いた。後半12分、14—14と待望の同点とした大阪ガス、がぜん反撃ムードが高まったかに見えたが、三景も中馬、地主園の好シュートで懸命に逃げ、結局は大阪ガスの健闘もむなしく、2点差で三景が勝利を握った。

▽7月3日（土）大阪ガス今津総合体育館（大阪）

中村荷役 21（9 12—3 9）12 大阪ガス
（2勝）　（1分2敗）

○……前半、中村荷役は松本、西窪でペースをつかもうとしたが大阪ガスも藤田、奥野らの気力あふれる攻防で応戦、一進一退が続いた。しかし、中村は25分にプレーイング・マネージャー・飯田が登場、この飯田の機を見た2連続ゴールで一気にペースを握り、ディフェンスを強化した後半は、大阪ガスの単調なシュートを速攻につなげ、裕々と逃げ切った。

トヨタ車体 29（18 11—11 8）19 セントラル自動車
（2勝1分）　（3敗）

○……立ち上がり調子の出ないトヨタ車体はイージーミスを繰り返し、セントラルは日野の好リードから8分過ぎに5—2とリード。しかし、中島、森岡らの踏んばりで盛り返したトヨタは10分に逆転に成功、その後も森岡、高田らの活躍で快勝した。

三陽勝会 27（12 15—8 7）15 日鉄建材
（2勝）　（3敗）

○……10分までは日鉄が岩本、山口らの活躍で5—3とリード。三陽は関を中心に金子、田口、鵜沢の中央4人のディフェンスで建て直し、ジリジリと地力の差を見せつけた。後半、外山、池辺、山口らの活躍もあったが焼け石に水三陽は関のアシストで田口、坪子、砂川がハツラツとプレー、大差をつけて圧勝した。

▽7月4日（日）大阪ガス今津総合体育館（大阪）

三陽商会 35（17 18—10 5）15 大阪ガス
（3勝）　（1分3敗）

○……前半立ち上がりから三陽は金子、関らの大型選手のパワフルなプレーで得点差を広げていった。一方の大阪ガスは、時折り奥野の個人プレーでゴールをあげるのみ。後半、若手にメンバーチェンジした三陽に対して大阪ガスも健闘したが、前半の得失点差はいかんともしがたく、体格、体力にまさる三陽の圧勝だった。

三　景 29（13 16—11 5）16 セントラル自動車
（3勝）　（4敗）

○……三景が犬飼の冷静な試合運びを軸に終始圧倒した。前半攻めあぐんでいたセントラルは、後半に入って日野のリードから谷中、海老原が両サイドで確実にポイントを稼ぎ、懸命に挽回を図ったが三景を脅かすまでには至らなかった。

中村荷役 26（13 13—8 9）17 日鉄建材
（3勝）　（4敗）

○……前半、日鉄は左トリオの活躍でリードしたが、中村が山崎のゲットで逆転してから一進一退。日鉄・池辺の退場を機に中村が着々と加点して前半を終了。後半、日鉄も健闘したが、15分頃から中村の堅いディフェンスを攻めあぐみ、逆に速攻をかけられて勝負が決まった。

＜女子＞

▽月6日13（日）市川運動公園体育館（千葉）

東京重機 29（15 14—10 7）17 ムネカタ
（1勝）　（1敗）

○……ともにスピードが売り物の両チームだが、セットプレーに優る重機が安田、渡辺、香村のサイド、ポストでムネカタの甘いディフェンスを切り崩し、7点差と大きく水をあけて前半を終了。後半に入ってムネカタも吉田、広田、石田らのミドルシューが決まり出し追撃を開始したが途中で息切れ、最後は重機が一方的に攻め立てて29—17と快勝。

関東学生春季リーグ戦

〈男子一部〉

▽4月25日

国士大 30（20―8 10―4）12 法政大

日本大 25（13―11 12―9）20 筑波大

日体大 18（11―8 7―6）14 早稲田大

中央大 27（10―6 17―6）12 慶応大

▽4月29日

早稲田大 18（9―10 9―6）16 中央大

女子の筑波大対日体大戦。筑波・河原のシュート

筑波大 20（9―9 11―3）12 国士大

日本大 30（15―7 15―11）18 法政大

日体大 26（13―6 13―11）17 慶応大

▽5月2日

日体大 26（16―9 10―12）21 法政大

筑波大 18（10―9 8―7）16 中央大

早稲田大 16（11―7 5―8）15 国士大

日本大 23（11―10 12―9）19 慶応大

▽5月5日

日本大 24（13―6 11―6）12 早稲田大

筑波大 24（14―9 10―11）20 日体大

中央大 29（16―13 13―14）27 法政大

国士大 15（9―5 6―8）13 慶応大

▽5月11日

中央大 21（10―12 11―9）21 国士大

法政大 21（15―7 6―12）19 慶応大

早稲田大 18（8―9 10―8）17 筑波大

日本大 20（10―8 10―8）16 日体大

▽5月12日

早稲田大 24（11―14 13―8）22 法政大

筑波大 21（10―7 11―9）16 慶応大

日体大 21（10―10 11―7）17 国士大

中央大 28（15―12 13―8）20 日本大

▽5月21日

早稲田大 19（10―6 9―9）15 慶応大

筑波大 29（19―10 10―12）22 法政大

日本大 21（11―6 10―7）13 国士大

日体大 30（12―11 18―9）20 中央大

〔順位〕①日本大（6勝1敗）②日体大（5勝2敗）③筑波大（5勝2敗）④早稲田大（5勝2敗）⑤中央大（3勝3敗1分）⑥国士大（2勝4敗1分）⑦法政大（1勝6敗）⑧慶応大（7敗）

〔優秀選手〕

GK 矢内 浩（国士大）

FP 西畑賢治（早稲田大）

糸 正明（日本大）

田口 隆（日本大）

高村誠一（日体大）

中島昭博（筑波大）

実方 智（中央大）

〔得点王〕

実方 智（中央大）51点

〈男子二部〉

▽4月24日

東京大 29―25 横浜国大

順天大 22―13 明治大

東京学芸大 22―17 茨城大

▽4月25日

東海大 24―12 明星大

▽4月28日

横浜国大 27―19 順天大

東京大 19―17 明治大

東海大 30―16 東京学芸大

▽4月29日

茨城大 24―16 横浜国大

順天大 27―24 明星大

▽4月30日

東京学芸大 26―19 順天大

東京大 30―23 明星大

東海大 23―16 明治大

▽5月1日

東京学芸大 32―30 東京大

東海大 32―23 横浜国大

茨城大 26―20 明治大

▽5月2日

東京大 24―19 茨城大

東京学芸大 30―17 横浜国大

▽5月5日

東海大 29―26 順天大

東京学芸大 24―14 明治大

▽5月15日

横浜国大 23―18 明星大

東京大 27―25 東海大

茨城大 27―19 順天大

▽5月16日

東海大 27―22 茨城大

東京大 28―25 順天大

横浜国大 23―23 明治大

東京学芸大 19―18 明星大

▽5月21日

明星大 27―23 明治大

〔順位〕①東海大（6勝1敗）②東京大（6勝1敗）③東京学芸大（6勝1敗）④茨城大（3勝4敗）⑤横浜国大（2勝4敗1分）⑥順天大（2勝5敗）⑦明星大（2勝5敗）⑧明治大（6敗1分）

〈男子三部〉

▽4月24日

専修大 25―15 東京理科大

神奈川大 27―17 立教大

横浜商大 31―25 青山学院大

上智大 31―12 芝浦工大

▽5月2日

芝浦工大 30―14 立教大

上智大 26―10 東京理科大

神奈川大 37―21 横浜商大

▽5月3日

東京理科大 20―17 神奈川大

▽5月5日

芝浦工大 29―14 神奈川大

立教大 26―19 横浜商大

▽5月6日

上智大 17―15 青山学院大

専修大 41―14 横浜商大

▽5月9日

芝浦工大 24―16 青山学院大

立教大 没収試合 東京理科大
上智大 16—8 専修大
▽5月13日
上智大 31—11 横浜商大
青山学院大 20—17 立教大
▽5月15日
芝浦工大 38—21 横浜商大
専修大 21—14 立教大
上智大 18—11 神奈川大
神奈川大 34—31 青山学院大
東京理科大 30—21 青山学院大
▽5月18日
専修大 25—18 芝浦工大
上智大 23—13 立教大
東京理科大 28—22 横浜商大
専修大 31—19 青山学院大
▽5月23日
芝浦工大 21—20 東京理科大
（順位）①上智大②専修大③芝浦工大④東京理科大⑤神奈川大⑥立教大⑦青山学院大⑧横浜商大

＜男子四部＞

▽4月24日
防衛大 19—13 一橋大
大東文化大 25—14 埼玉大
東京経済大 22—9 文教大
▽5月2日
大東文化大 23—21 防衛大
文教大 21—15 埼玉大
一橋大 22—17 東京経済大
▽5月5日
防衛大 30—14 埼玉大
東京経済大 19—17 創価大
▽5月6日
大東文化大 23—12 一橋大
埼玉大 18—13 創価大
東京経済大 24—18 千葉工大
防衛大 17—16 文教大
▽5月8日
一橋大 17—15 文教大
千葉工大 16—14 一橋大
▽5月13日
大東文化大 23—21 東京経済大
文教大 20—15 創価大
千葉工大 26—16 防衛大
▽5月15日
埼玉大 17—11 東京経済大
創価大 14—10 一橋大
大東文化大 21—15 文教大
▽5月16日
防衛大 19—12 創価大
埼玉大 19—14 千葉工大
千葉工大 24—16 創価大
▽5月18日
文教大 18—12 千葉工大
防衛大 20—15 東京経済大
大東文化大 30—19 創価大
▽5月23日
大東文化大 16—12 千葉工大
（順位）①大東文化大②防衛大③埼玉大④文教大⑤千葉工大⑥東京経済大⑦一橋大⑧創価大

＜男子五部＞

▽4月24日
東京農大 23—14 東京工大
独協大 25—22 千葉大
武蔵大 27—15 東洋大
横浜市大 16—14 武蔵工大
▽4月28日
横浜市大 20—17 東洋大
武蔵工大 27—15 千葉大
武蔵大 20—7 東京工大
独協大 21—16 東京農大
▽5月6日
東京農大 30—15 千葉大
武蔵工大 38—18 武蔵大
独協大 24—20 東洋大
東京工大 15—14 横浜市大
▽5月13日
東京工大 17—16 独協大
東京農大 26—21 武蔵工大
武蔵大 21—19 横浜市大
東洋大 26—23 千葉大
▽5月15日
武蔵工大 33—24 東洋大
横浜市大 17—17 東京農大
東京工大 18—13 千葉大
▽5月18日
東京農大 26—15 東洋大
独協大 20—15 横浜市大
武蔵大 28—10 千葉大
武蔵工大 21—14 東京工大
（順位）①東京農大②武蔵工大③独協大④武蔵大⑤横浜市大⑥東京工大⑦東洋大⑧千葉大

＜男子六部＞

▽4月24日
玉川大 14—13 明治学院大
和光大 18—18 都留文大
関東学院大 35—19 都立大
亜細亜大 23—16 成蹊大
日本工大 46—20 東京工芸大
農工大 20—17 山梨大
▽5月1日
明治学院大 18—15 麗沢大
東京外語大 25—10 麗沢大
玉川大 15—14 都留文大
▽5月3日
関東学院大 30—19 東京工芸大
和光大 22—18 麗沢大
▽5月6日
都留文大 12—10 明治学院大
日本工大 33—20 成蹊大
農工大 24—21 関東学院大
亜細亜大 33—20 東京工芸大
都立大 不戦勝 山梨大
▽5月8日
東京外語大 27—14 拓殖大
▽5月9日
麗沢大 20—18 拓殖大
明治学院大 22—18 東京外語大
山梨大 26—24 東京工芸大
成蹊大 28—21 農工大
日本工大 22—15 亜細亜大
▽5月13日
明治学院大 27—14 拓殖大
都留文大 25—20 東京外語大
玉川大 26—13 麗沢大
農工大 36—18 東京工芸大
関東学院大 23—13 成蹊大
日本工大 36—17 都立大
▽5月15日
明治学院大 24—14 和光大
日本工大 34—25 農工大
成蹊大 33—15 東京工芸大
亜細亜大 18—12 都立大
都留文大 32—14 拓殖大

▽5月18日
関東学院大 24－16 山梨大

▽5月18日
関東学院大 26－19 日本工大
拓殖大 21－20 玉川大
和光大 26－24 東京外語大
都留文大 23－18 麗沢大
都立大 27－19 東京工芸大

▽5月19日
農工大 27－18 都立大
和光大 18－18 玉川大

▽5月25日
亜細亜大 24－20 農工大
日本工大 30－20 都留文大
玉川大 21－16 東京外語大

▽5月26日
関東学院大 22－19 亜細亜大
成蹊大 20－17 都立大

▽順位決定戦
関東学院大 25－22 玉川大
農工大 26－22 和光大

〔順位〕①日本工大②都留文大③関東学院大④玉川大⑤亜細亜大⑥明治学院大⑦農工大⑧和光大⑨成蹊大⑩東京外語大⑪麗沢大⑫都立大⑬山梨大⑭拓殖大⑮東京工芸大

＜女子一部＞

▽4月18日
筑波大 26（13－4、13－3）7 茨城大

▽4月24日
日体大 28（17－2、11－6）8 茨城大

▽4月25日
日体大 28（13－6、15－4）10 茨城大

東女体大 30（19－3、11－7）10 日女体大
筑波大 25（10－7、15－9）16 東京学芸大

▽4月28日
筑波大 21（11－8、10－4）12 東京学芸大

▽4月29日
東女体大 17（9－3、8－4）8 日女体大
日体大 39（23－7、16－5）12 東京学芸大
筑波大 26（11－8、15－4）12 茨城大

▽4月30日
日体大 30（14－6、16－2）8 東京学芸大

▽5月1日
日体大 31（15－8、16－7）15 日女体大

▽5月2日
日体大 27（12－6、15－5）11 日女体大
東女体大 34（15－4、19－5）9 茨城大

▽5月3日
東女体大 27（15－4、12－5）9 茨城大
筑波大 22（10－2、12－6）8 日女体大

▽5月5日
日体大 21（13－7、8－9）16 東女体大
筑波大 32（14－3、18－6）9 日女体大

▽5月8日
日女体大 25（16－8、9－9）17 東京学芸大
日体大 20（8－10、12－7）17 東女体大

▽5月9日
日女体大 22（13－7、9－9）16 東京学芸大
筑波大 16（8－7、8－7）14 東女体大

▽5月11日
筑波大 15（5－6、10－7）13 東女体大

▽5月12日
東京学芸大 24（13－8、11－7）15 茨城大

▽5月15日
東京学芸大 18（9－5、9－8）13 茨城大

▽5月16日
日女体大 18（8－7、10－9）16 茨城大
東女体大 35（21－9、14－5）14 東京学芸大
日体大 22（10－6、12－10）16 筑波大

▽5月21日
東女体大 37（15－10、22－6）16 東京学芸大
日女体大 25（9－9、16－7）16 茨城大
日体大 16（5－6、11－6）12 筑波大

〔順位〕①日体大（10勝）②筑波大（8勝2敗）③東女体大（6勝4敗）④日女体大（4勝6敗）⑤（2勝8敗）⑥茨城大（10敗）

〔優秀選手〕
GK 高倉史子（日体大）
FP 天野優子（日体大）
国府さわ栞（日体大）
池内季子（日体大）
河原敦子（筑波大）
山口順子（筑波大）
鈴木智恵子（東女体大）

＜女子二部＞

▽4月24日
都留文大 14－3 千葉大
文教大 29－3 駒沢大
創価大 12－5 千葉大
東海大 16－14 千葉明徳

▽4月28日
文教大 16－14 都留文大
東海大 41－2 駒沢大
千葉明徳 35－2 千葉大
千葉明徳 40－10 創価大

▽5月6日
千葉明徳 43－2 駒沢大
東海大 29－15 文教大
都留文大 15－8 創価大

▽5月9日
創価大 12－5 駒沢大

▽5月13日
文教大 22－4 千葉大
東海大 35－4 創価大
千葉明徳 31－8 都留文大

▽5月15日
東海大 39－3 千葉大
文教大 13－8 創価大
都留文大 8－5 駒沢大

▽5月18日
東海大 26－7 都留文大
千葉明徳 26－12 文教大
駒沢大 11－5 千葉大

〔順位〕①東海大②千葉明徳③文教大④都留文大⑤創価大⑥駒沢大⑦千葉大

＜入れ替え戦＞

▽5月28日
法政大 29（17－12、12－8）20 東京大
※法政大一部残留
慶応大 20（9－8、11－9）17 東海大
※慶応大一部残留

▽5月29日
都留文大 31（15－12、16－7）19 東洋大
※都留文大五部昇格
東京農大 23（10－10、13－9）19 創価大
※東京農大四部昇格
大東文化大 30（16－10、14－8）18 横浜商大
※大東文化大三部昇格

▽5月30日
日本工大 40（24－12、16－13）25 千葉大
※日本工大五部昇格
一橋大 19（9－9、10－9）18 武蔵工大
※一橋大四部残留
防衛大 24（12－9、12－7）16 青山学院大
※防衛大三部昇格
上智大 19（9－8、10－7）15 明治大
※上智大二部昇格
明星大 26（12－10、14－8）18 専修大
※明星大二部残留

▽5月28日（女子）
茨城大 20（11－6、9－5）11 東海大
※茨城大一部残留

テーマは「人間と機械」
OMRON
いらっしゃいませ
残高照会
ご送金
お引出
ご預金
通帳記入
ご用件のキーを1つ
お押しください
※押さずにカードを
お入れになりますと
お引出になります
人間と機械との対話。
機械化、無人化がすすみ、人間と機械との関わりあいが深まるにつれ、より扱いやすく、より親切な機械の開発が望まれてきました。目から、耳から、人間との対話をはかろうとする試みがそれです。
すっかりおなじみになった銀行の機械化コーナー。そこでは、CRTを採用した操作案内で、きめ細かなメッセージをおとどけしている支払機や預金機が。レストランでは、表示・レシートをもカナ文字ででてくる電子レジスタが…。
このように、オムロンは〝人間と機械との対話〟を推し進めながら、その新しい歴史をつくっています。
OMRON小形現金自動預金支払機
預金・支払・両替・記帳・残高照会…など、
目的にあわせて、CRTでわかりやすく操作案内。
だれもが間違いなくスムーズに使いこなすことができます。
OMRON
A ﾎﾟﾊﾑｻﾗﾀﾞ 800
OMRON電子レジスタ591-IRC
価格だけでなく、カナ文字で品名をも表示、
さらにレシートにも同じカナ文字で印字。
明瞭で気もちよい会計が行なえます。
OMRON
立石電機
立石電機株式会社
〒616京都市右京区花園土堂町10
TEL075(463)1161大代

ミニハンドボールについて

=日本の少年少女を指導するために=

河村レイ子（筑波大学）
水上　一（筑波大学）

近年我が国でのハンドボールの普及はめざましいものがあるが、それは高校以上の競技を志向するレベルでのことである。小学生を対象としたハンドボールの普及は底辺の拡大という点からも極めて大切なことであると思われる。これまでも愛知、熊本、神奈川などで熱心な指導者により、地道な指導が行なわれてきており、教育的効果もあがっているようである。しかし全国的な普及に関しては今一歩の感がある。これまでの実践結果からも、ハンドボールが小学生の体育のねらいに合致していることが裏付けられている。ただ実施の方法に関しては各地域まちまちで、全国的に統一されたものは見当らない。

今回ハンドボールの社会的地位も高く、その普及も素晴らしい西ドイツのミニハンドボールの資料を手に入れたので、これからの我が国の少年少女のハンドボールの指導の参考とするためにこれを紹介する。

①西ドイツの ミニハンドボール

西ドイツではハンドボールが競技スポーツとしてだけではなく、学校体育教材としても適していることが認められている。ドイツハンドボール協会が、少年少女のためのミニハンドボールのテキストを出しているので、ここで紹介する。

愛すべきミニハンドボールの友よ

このリーフレットはドイツハンドボール協会が6才以上の少年少女のための競技ミニハンドボールに関する手引として出したものである。我々はミニハンドボールで多くの喜びを得られることを望みます。多分このミニハンドボールに対して、なお広範な提案もありましょうし、まだ基礎的なことを欠いているところもあります。何かありましたら下記までお寄せ下さい。

ミニハンドボール

ミニハンドボールは6才以上の少年少女によって競技される。

○競技場

普通のすでに作られたハンドボール競技場が利用される。場所の状況によっては、12メートル×20メートルのコートでもゲームが可能である。

○ゴールエリア

幅17メートル以上のコートでは普通のゴールエリアラインが適用される。フリースローラインは破線によって示される。

a　幅14メートル～17メートルまでのコートにあっては、半径6メートルのゴールエリアライン。

b　幅14メートル以下のコートでは、半径5メートルのゴールエリアライン。

○ゴール

普通のハンドボールゴールを使用するが、ゴールの高さははめこみ板で低くされる。（1.6メートル）またゴールはマット、かべ、とび箱を代用しても良い。

○ボール

ミニハンドボールでは外周48センチから50センチのボールを使う特に初心者にあっては Softball を使ってもよい。

○競技人員

次のような人員である。

a　幅17メートル以上のコートでは、6人のFPと1人のGK。

b　幅17メートル以下のコートでは、5人のFPと1人のGK。

ミニハンドボールでは少年少女の混合チームが構成されることができる。

○競技時間

競技時間は10分の休けい時間をはさんで前、後半15分である。

○競技規則

規則は普通のハンドボール競技の競技規則に準ずる。

許されること

a　ボールをあらゆる身体部位―下腿部と足を除く―でプレーする（投げる、打つ、突く、捕える）こと

b　地上にボールをおくとしても、最高3秒までボールを保持すること。

c　ボールを保持して最高3歩まで動くこと。

d　立ったままでも、走りながらでも随時にボールをドリブル出来ること。ドリブル後あらたにボールを持ったら、味方に渡すかゴールに投げなければならない。

禁止されること

a　意図的に下腿又は足でボールをプレイすること。ただしゴールキーパーだけは防御においては許される。

b　敵を突きとばすこと、引っぱること、たたくこと、つかまえることあるいは腕で抱きつくことは禁止される。

c　敵の持っているボールをとるため、握りこぶしを使うこと。

d　ゴールエリア内に踏みこむこと。

フリースロー

プレイヤーが競技規則に違反したら、相手チームはフリースローを得る。ボールは違反の起った地点から投げられなければならない

スローイン

ボールがサイドラインを越えるとき、サイドラインを踏み越える

前にそのボールにふれなかったチームがボールを得てスローインする。

指導上の手引き

○ゲームにおける感激から競技に対する動機づけを見出す。
○まず最初に学習段階の中に、ゲームの喜びを上位におく。
○教育的原理を応用する。
○軽いものから重いものへ、簡単なものから複雑なものへ。
○少年少女達がともにプレイでき、競技実施に対して共通であるように。
○練習過程では原則に基いた姿勢で、慎重な指導を行う。
○初心者にあっては防御能力を高めるために、形にとらわれないゲーム(主としてマンツーマン防御)が良い。

コーチ・指導者の課題

○行為体験とゲームの喜びを媒介とし、成功した行為をほめあやまりはより良くなるような指示を与えてあげなさい。
○あまりに強い規則（例えばゾーン防御とかゲームの組み立て方など）は競技成果の可能性を制限することになりかねない。
○力のない選手であっても競技成果に大きく貢献するものであることを選手に知らしめる必要がある。
○ミニハンドボールでは勝利がすべてではない。そこまでにたどりつく過程を知り、認識がなされなければならない。指導者は競技現象に積極的に反応する必要がある。
○コーチはルールの知識をもとに、子供達にルールの理解を喚起するよう、レフリーとともに協力していかなくてはならない。
　選手はコーチの決定を素直に受け入れることを学ばなくてはならない。

レフリーの課題

○レフリーは競技規則の厳守をとりながら、責任ある競技指導者として存在する。
○レフリーは必要ならゲームの流れや、ゲームの喜びをも中断させゲームを指導していく人であらねばならない。
○レフリーは必要ならばミニハンドボールの選手達を助けたり、説明したり、指導したりしなくてはならない。
　教師、レフリー、コーチは成果の抑制、正しい目標設定などによりミニハンドボール選手の学習発達に絶えず目を向ける必要がある。

目標

〃ボールをプレイするのであって
人にプレイするのではない〃
という根本原理によって、
敵のプレイヤーに対して常に
フェアーにふるまいなさい。

DEUTSCHER HANDBALL-BUND Mini-Handball macht Spaß より

②西独ヘッセン州ハンドボール協会のミニハンドボール

スポーツ授業における補助教材として

　今なお多くの小体育館（例えば12メートル×14メートル、15メートル×27メートル）があるということで、その小体育館で、6才～10才までの児童生徒達が〃ミニハンドボール〃という形態で室内ハンドボールを行えるように、我々は特に小学校での指導において若干の手助けになる案を示したいと願うものである。
　どのようにしてミニハンドボールは競技されることが出来るか。
1　公式の室内ハンドボール規則に従って競技される。
2　競技場（コート）に関して言えば、以下の案で行ないたい。
a　コートの長さ：20～24メートル
b　コートの広さ：11～13メートル
c　ゴールエリアライン：4.5～5メートル
d　フリースローライン：5.5～6メートル
d　ペナルテ　スローライン：5～5.5メートル
3　ゴールの大きさは1.6メートルの高さで、2.4メートルの幅である。
　ミニゴール製作に関しては、補助的にとび箱を用意するか、壁にわかりやすいようにラインテープ（6～8センチ）でゴールを作るなどをお願いしたい。その他に可能ならば平たい、単独の立てられるマットを、壁にゴールとして置いてもよい。
4　競技用具としては次のようなものが推薦されろる。
a　ソフトボール（あわゴム、クレープゴム）
b）ミニハンドボール（275グラムの重さ、円周48センチ）両ボールとも容易に手に入れやすい。
5　競技人員
　4～5人のフィールドプレイヤー（体育館の大きさによって）と1人のゴールキーパー。

〃ミニハンドボール
で楽しんでもらいたい〃

③日本での現状

　指導のねらい「ハンドボールを通じてスポーツの楽しさを知らせる」「走跳投の基礎的運動能力をバランスよく伸ばす」「規則を守り協力してチームゲームを行う」
　実施の方法　コート、ボール、競技時間などについて、地域によって色々と工夫がされてはいるが、全国的に統一されたものはない。競技のすすめ方についても公式のハンドボール規則に準じている。ただ反則に関するプレーは、教育的配慮からも厳しくとりあつかわれている。
　指導上の問題点　まず指導者の資質の問題である。小学生は指導者の影響を非常に受けやすいことから、ハンドボールを正しく理解した指導者を一人でも多く養成することが望まれている。次に使用する用具の問題である。安全性の面からも、技術の面からも小学生にあった大きさのボールやゴールポストが検討されなければならない。

○参考資料

○日本ハンドボール協会普及部
昭和51年4月　ジュニアハンドボールガイドブック
○全日本教職員ハンドボール連盟
紀要第2集・小学校におけるハンドボールの指導について　愛知・角紘昭
○紀要第3集　小学生のハンドボールについて　神奈川・松本正明
○昭和56年第1回ハンドボール競技コーチ養成講習会（日本ハンドボール協会）資料
○PRAXIS SPORT 3 Mini-Handball Helmut Duell Günter Klein
○DEUTSCHER HANDBALL-BUND Mini-Handball macht Spaß

小学生ハンドボールの実施状況表

実施県他	参考資料	対象	コート	ゴールエリア	ゴール	ボール	競技時間	競技人員	競技規則	指導上の留意点他	参加する大会など
熊本 ハンドボールクラブ	前田氏資料より	小学1年生～6年生	20×40メートル	6メートル	2×3メートル	教育1号ボール（57～59） ドッチボール	10―5―10分	FP6人、GK1人	ハンドボール競技規則に準ず	○スポーツの楽しさを知らせる ○スポーツを通しての人間教育 ○ハイレベルの技術指導や筋力トレーニングはさける ○スポーツ好きの子を育てる ○多くのことを教え過ぎない ○ルールの厳守 ○けがの防止 ○教育的観点から審判を厳しく	学童オリンピック リーグ戦 合宿練習会
愛知 ハンドボール教室	角氏資料より	小学1年生～6年生	大会20×30メートル 低学年15～18×25メートル		0.9～1メートルのカラーコーン2個使用				同上	○基礎技能の練習にも進歩の度合、結果が明確になる課題を与える ○ゲームや競争場面を多く入れる ○ゲームを見て楽しいものにするためのルール、審判、指導法 ○小学生は特に指導者の影響を受けやすい	
神奈川 ハンドボール教室	松木氏資料より	小学4年生～6年生	15×25～30メートル	5メートル	1.7～2×2.5～3メートル、2×3メートル	教育0～2号ボール（49～52、57～59、61～63）		FP6人、GK1人	同上	◎ボールが小さく軽いので身体の動きが速く、活発に動ける ○思いっきり、力いっぱいにシュートができる	大会はなし
日本ハンドボール協会	ジュニアガイドブックより	小学生	15～20×30～35メートル	6メートル	2×3メートル	教育0～1号ボール	15―5―15分	FP6人、GK1人	同上		
西ドイツハンドボール連盟	ミニハンドボール	6才以上少年少女	12～20×20～40メートル	幅17以上：6メートル 幅14以上半径6メートル 幅14以下半径5メートル	1.6×3メートル マット、とび箱、かべ	外周48～50センチ Softball（初心者）	15―10―15分	幅17以上：FP6人、GK1人、幅17以下：FP5人、GK1人	同上	○敵プレイヤーに対して常にフェアーにふるまう ○勝利よりそれにいたるまでの過程を重視する ○ゲームの楽しさを味わせる ○形にとらわれないゲームをさせる ○あまりに強い規則は競技成果の可能性を制限することがある	
西ドイツヘッセン州ハンドボール連盟	ミニハンドボール	6才～10才	11～13×20～24メートル	4.5～5メートル	1.6×2.4メートル マット、とび箱、かべ	ミニハンドボール（275グラム、48センチメートル） Softball		4～5人のFPと1人のGK	同上		

昭和57年度補正予算（一般会計）

収入の部　　　　財団法人　日本ハンドボール協会

款	項	目	当初予算額	補正予算額	比較増減(△)	説明
1.負担金			2,850,000	2,850,000	—	
	(1)負担金		2,850,000	2,850,000	—	
		イ.負担金	2,850,000	2,850,000	—	
2.補助金			3,745,000	3,885,000	140,000	教育系大学生研修会補助増額内示
	(1)補助金		3,745,000	3,885,000	140,000	
		イ.補助金	3,745,000	3,885,000	140,000	
3.委託費			605,000	0	△ 605,000	特別会計に移管
	(1)委託費		605,000	0	△ 605,000	
		イ.委託費	605,000	0	△ 605,000	
4.事業収入			28,780,000	28,780,000	—	
	(1)登録金		9,670,000	9,670,000	—	
		イ.登録金	9,670,000	9,670,000	—	
	(2)検定・審査料		5,400,000	5,400,000	—	
		イ.公認料	5,000,000	5,000,000	—	
		ロ.審判員審査料	400,000	400,000	—	
	(3)開催権料等		2,710,000	2,710,000	—	
		イ.日本リーグ開催権料	1,710,000	1,710,000	—	
		ロ.放映権料	1,000,000	1,000,000	—	
	(4)機関紙購読料等		11,000,000	11,000,000	—	
		イ.購読料	8,300,000	8,300,000	—	
		ロ.広告料	2,700,000	2,700,000	—	
5.寄付金			6,000,000	6,000,000	—	
	(1)寄付金		6,000,000	6,000,000	—	
		イ.オリンピック寄付金	1,000,000	1,000,000	—	
		ロ.その他の寄付金	5,000,000	5,000,000	—	
6.雑収入			4,250,000	3,000,000	△ 1,250,000	
	(1)雑収入		4,250,000	3,000,000	△ 1,250,000	
		イ.物品売上収入	1,250,000	0	△ 1,250,000	特別会計に移管
		ロ.預金利子	3,000,000	3,000,000	—	
7.繰越金			5,000,000	14,294,292	9,294,292	前年度決算額の確定
	(1)前年度繰越金		5,000,000	14,294,292	9,294,292	
		イ.前年度繰越金	5,000,000	14,294,292	9,294,292	
8.特別会計からの繰入			—	1,520,200	1,520,200	
	(1)特別会計からの繰入		—	1,520,200	1,520,200	
		イ.特別会計からの繰入	—	1,520,200	1,520,200	
合計			51,230,000	60,329,492	9,099,492	

支出の部

款	項	目	当初予算額	補正予算額	比較増減(△)	説明
1.加盟金			660,000	660,000	—	
	(1) 加盟金		660,000	660,000	—	
		イ.I.F加盟金	220,000	220,000	—	
		ロ.体協加盟金	150,000	150,000	—	
		ハ.A.F加盟金	290,000	290,000	—	
2.事務費			19,202,000	22,753,000	3,551,000	
	(1) 人件費		7,612,000	9,443,000	1,831,000	
		イ.給料	4,992,000	6,000,000	1,008,000	
		ロ.超過勤務手当	0	500,000	500,000	
		ハ.賞与	2,080,000	2,343,000	263,000	
		ニ.通勤手当	540,000	600,000	60,000	
		ホ.賃金	0	0	—	
	(2) 運営諸費		6,440,000	6,740,000	300,000	
		イ.備品費	200,000	200,000	—	
		ロ.消耗品費	800,000	800,000	—	
		ハ.印刷製本費	1,200,000	1,200,000	—	
		ニ.通信運搬費	2,000,000	2,000,000	—	
		ホ.旅費	200,000	200,000	—	
		ヘ.借料及び損料	1,000,000	1,300,000	300,000	コピア、テレックスレンタル料の値上げ
		ト.会議費	200,000	200,000	—	
		チ.諸謝金	240,000	240,000	—	
		リ.物品作成費	600,000	600,000	—	
	(3) 旅費		3,020,000	4,020,000	1,000,000	
		イ.役員旅費	3,020,000	4,020,000	1,000,000	評議員旅費
	(4) 渉外費		1,000,000	1,000,000	—	
		イ.渉外費	1,000,000	1,000,000	—	
	(5) 雑費		600,000	600,000	—	
		イ.雑費	600,000	600,000	—	
	(6) 保険料		150,000	150,000	—	
		イ.保険料	150,000	150,000	—	
	(7) 賞杯費		380,000	800,000	420,000	
		イ.賞杯費	380,000	800,000	420,000	
3.編集委員会費			10,290,000	10,290,000	—	
	(1) 編集委員会費		10,290,000	10,290,000	—	
		イ.嘱託費	480,000	480,000	—	
		ロ.旅費	480,000	480,000	—	
		ハ.会議費	110,000	110,000	—	
		ニ.印刷製本費	9,220,000	9,220,000	—	

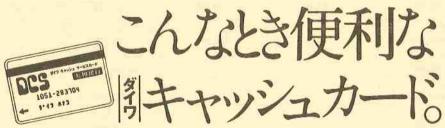
給与の
お引き出しに…

出張に…

ショッピングに…

銀行が
閉まった後で…
（ダイワの外壁や ☑ コーナー）

旅行に…

ふいの出費に…

日常のお引き出しに…

カード1枚で現金自動支払機から手軽に現金が引き出せます。通帳もハンコもいりません。サイフがわりにご利用を…。

時間外のお引き出しに…

ダイワの外壁に面したキャッシュコーナーでは、平日午前8:45～午後6:00（土曜日は午前9:00～午後2:00）まで、また☑マークのコーナーでは、平日午後5時、土曜午後2時まで現金が引き出せます。

ご出張やお買物の折に…

お出かけ先で現金がご入用になったときダイワの全店にあるキャッシュコーナーや☑マークのコーナーがお役に立ちます。

給与のお引き出しに…

給与振込制をご採用の場合は、お給料日の朝からカードを使って引き出せます。奥さまもご自宅近くのダイワでどうぞ…。

☑マークのコーナーでは設置場所により、お取扱い時間が異なる場合があります。
また、日・祝日および設置場所の休業日はお取扱いしません。

ダイワキャッシュカードは総合口座（普通預金）をご利用の方におつくりしています。お気軽にお申込みください。

あなたと明日を
預金も
信託も…
大和銀行

昭和57年度特別会計予算

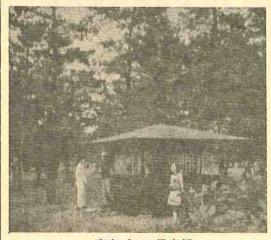
事業名	日体協国際競技力向上事業委託対象事業特別会計						
	科目＼事業名	① チーム派遣（全日本男子欧州遠征・東独外）	② コーチ招待（イオン・クンスト）	③ 強化指導費	④ ジュニアーチーム派遣（世界学生選手権大会(男子)スペイン）	⑤ ジュニアー研修合宿（I）	⑥ ジュニアー研修合宿(II)（大学強化拠点部）
収入の部	委託費	4,800,000	736,000	622,000	6,206,000	2,600,000	1,868,000
	負担金	参加選手負担金 2,401,000	日本協会負担金 368,000	日本協会負担金 311,800	参加選手負担金 3,104,000	日本協会負担金 1,300,000	拠点校負担金 936,480
	合計	7,201,000	1,104,000	933,800	9,310,000	3,900,000	2,804,480
支出の部	旅費	6,004,000	759,000		7,600,000		
	滞在費	1,197,000	135,000		1,710,000		
	謝金		210,000				
	コーチ諸費					350,000	150,000
	選手諸費					3,550,000	2,654,480
	強化活動費			933,800			
	合計	7,201,000	1,104,000	933,800	9,310,000	3,900,000	2,804,480

事業名	スポーツ医科学調査研究国庫補助事業特別会計	スポーツ傷害保険日体協委託事業特別会計	物品売上特別会計	第8回女子世界選手権アジア予選特別会計	合計
収入の部	補助金 1,000,000	委託費 60,000	売上収入 2,000,000	協賛金 5,100,000	
	日本協会負担金 500,000			入場料 2,000,000	
				放映権料 2,500,000	日本協会負担金 2,479,800
	計 1,500,000	60,000	2,000,000	9,600,000	計 38,413,280
支出の部	会議費 100,000	諸費 60,000	物品作成費 600,000	体育館使用料 600,000	
	旅費 250,000			審判経費 2,000,000	
	謝金 600,000			レセプション 600,000	
	諸費 550,000			日本選手宿泊費 2,000,000	
				国内移動費 800,000	
				運営諸費 1,000,000	
					日本協会収益 4,000,000
	計 1,500,000	60,000	600,000	7,000,000	計 34,413,280

差引残高 4,000,000－日本協会負担金計 2,479,800 ＝ 1,520,200（一般会計へ繰入れ）

科目			当初予算額	補正予算額	比較増減(△)	説明
款	項	目				
4．事業費			17,766,000	15,236,000	△ 2,530,000	
	(1) 団体補助・大会費		4,380,000	4,380,000	—	
		イ．団体補助・大会費	4,380,000	4,380,000	—	
	(2) 国民スポーツプロジェクト		300,000	300,000	—	
		イ．旅費	240,000	240,000	—	
		ロ．会議費	30,000	30,000	—	
		ハ．印刷費	30,000	30,000	—	
	(3) ハンドボール教室開設助成金		600,000	600,000	—	
		イ．開催地補助	600,000	600,000	—	
	(4) クラブ育成費		150,000	150,000	—	
		イ．育成費	150,000	150,000	—	
	(5) 教育系大学研修会費		1,600,000	1,600,000	—	
		イ．旅費	120,000	120,000	—	
		ロ．借損料	100,000	100,000	—	
		ハ．諸謝金	300,000	300,000	—	
		ニ．受講者補助	900,000	900,000	—	
		ホ．雑費	180,000	180,000	—	
	(6) 公認コーチ講習会		480,000	480,000	—	
		イ．旅費	260,000	260,000	—	
		ロ．印刷費	50,000	50,000	—	
		ハ．講師謝礼	150,000	150,000	—	
		ニ．雑費	20,000	20,000	—	
	(7) 普及関係諸費		960,000	960,000	—	
		イ．印刷費	300,000	300,000	—	
		ロ．旅費	600,000	600,000	—	
		ハ．会議費	60,000	60,000	—	
	(8) A・B級審判員審査		326,000	326,000	—	
		イ．旅費	256,000	256,000	—	
		ロ．借損料	50,000	50,000	—	
		ハ．審査会議費	20,000	20,000	—	
	(9) 公認審判中央講習会		270,000	370,000	100,000	
		イ．旅費	180,000	280,000	100,000	
		ロ．借損料	90,000	90,000	—	
	(10) 公認審判地方講習会		216,000	216,000	—	
		イ．旅費	216,000	216,000	—	
	(11) J・H・Aレフリーコース		580,000	580,000	—	
		イ．旅費	320,000	320,000	—	
		ロ．借損料	200,000	200,000	—	
		ハ．雑費	60,000	60,000	—	

科目			当初予算額	補正予算額	比較増減(△)	説明
款	項	目				
	(12) 審判関係諸費		674,000	674,000	—	
		イ．旅費	604,000	604,000	—	
		ロ．会議費	70,000	70,000	—	
	(13) 強化合宿費		4,000,000	4,000,000	—	
		イ．旅費	4,000,000	4,000,000	—	
	(14) ジュニアー合宿費		1,000,000	0	△ 1,000,000	特別会計へ移管
		イ．旅費	1,000,000	0	△ 1,000,000	
	(15) 強化部諸費		230,000	600,000	370,000	
		イ．旅費	200,000	540,000	340,000	
		ロ．会議費	30,000	60,000	30,000	
	(16) 国際審判員認定講習会		1,000,000	0	△ 1,000,000	韓国で実施済
		イ．旅費	700,000	0	△ 700,000	
		ロ．借損料	300,000	0	△ 300,000	
	(17) 世界選手権アジア予選		1,000,000	0	△ 1,000,000	特別会計へ移管
		イ．開催委託費	1,000,000	0	△ 1,000,000	
5．受託事業費			700,000	0	△ 700,000	
	(1) 強化コーチ巡回指導		700,000	0	△ 700,000	特別会計へ移管
		イ．旅費	700,000	0	△ 700,000	
6．特別会計繰入れ			1,000,000	0	△ 1,000,000	
7．予備費			1,612,000	11,390,492	9,778,492	
合計			51,230,000	60,329,492	9,099,492	

1982

みんなではいろう！“スポーツ安全協会傷害保険„

スポーツ団体だけでなく
子ども会，婦人団体，地域のクラブ等の方々も
10名以上のグループで，ご加入になれます

●保険料，保険金額は（お一人につき）

区分		保険料	死亡・後遺障害保険金額	医療保険金額	
				通院	入院
第1種	A	340円	12,000,000円 後遺障害の支払いは3％～100％	日額 1,000円 支払限度日数 90日	日額 1,500円 支払限度日数 180日
	B	400			
	C	680			
第2種	A	9,600			
	B	3,200			
	C	1,600			

●第1種，第2種ＡＢＣの区分は次のとおりです。

区分		内容
第1種	A	スポーツ少年団，子ども会，こてきバンドなど義務教育終了前の幼少年グループ
	B	コーラスサークル，環境美化友の会などの文化活動，奉仕活動などを行う団体
	C	ママさんバレー，早起き野球などの地域スポーツ団体
第2種	A	山岳会，スキンダイビング，リュージュ，スカイダイビングなど
	B	スキー，ラグビー，サッカー，柔道，ボクシング，空手，馬術，相撲，硬式野球など
	C	ハンドボール，陸上，水泳，軟式野球，バレー，ボート，体操競技，剣道，射撃など

●体協公認等の指導者も10名以上まとまった場合は第１種Ｃで加入できます。また，指導する団体の一員としても加入できます。

●適用の範囲（担保条件）は
○加入者の所属する団体の管理下における活動中の事故。
○団体が指定する集合，解散場所と加入者の住所との通常の経路往復中の事故。
○ただし学校管理下（学校安全会の給付対象内）における事故は不担保。

●保険期間
毎年４月１日より翌年３月31日まで。ただし，中途加入でも翌年３月31日まででです。（申込は３月１日から受付ます）

●加入申込み，資料の請求，お問合せは……
スポーツ安全協会各都道府県支部（主として教育委員会保健体育課にあります），東京海上火災の営業店にご照会ください。

（財）スポーツ安全協会
東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館
電話　467－3111（代）　直通460－6263

「いい音」ビューティフル。

自由に気ままに楽しもう、おしゃれなミニカセットレコーダー。

新開発DNSSテープヒスノイズカット回路内蔵。
デジタル選曲機構装備。メタルテープ対応。

小さなボディながらもワイドなステレオサウンドが楽しめる《ステレオミニ6600》。2つの9.2cmスピーカーが叩き出す4.6W(2.3W＋2.3W、EIAJ/DC)のハイパワーは、豊かなステレオ臨場感を再現します。また曲の頭出しに便利なデジタル選曲機構や、テープ再生中に曲間および曲間に相当する低録音レベル時の耳ざわりなテープヒスノイズをカットする新開発DNSS(ダイナミック・ノイズ・サプレッション・システム)ノイズカット回路を採用。しかもメタルテープ対応ヘッドを搭載しています。

●AM放送の同調がしやすい周波数間隔を広げたロングスケール採用 ●テレビの1、2、3チャンネルが聴けるFMワイドバンド(76～108MHz)採用 ●FM局間ノイズをカットするFMミューティング機能つき ●フルオートストップ機構 ●ソフトイジェクト機構 ●ACアダプター付属

●9.2cmスピーカー×2 ●実用最大出力4.6W(2.3W＋2.3W)EIAJ/DC ●3電源/DC:9V(単2×6)、AC:100V50/60Hz(付属ACアダプター使用)、カーバッテリー:別売りカーアダプターD-72使用 ●大きさ幅41.0×高さ13.3×奥行7.3(cm) ●重さ2.5kg(乾電池含む) ★キャリングケース(別売りL-6600 ¥4,000)もございます。

ステレオ ミニ

TRK-6600 ¥44,800

品質を大切にする〈技術の日立〉

RADIO CASSETTE RECORDER

―― 生活と技術をむすぶ ――

日立家電販売株式会社

〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)502-2111

ご購入金額から頭金を差引いた金額が1万2千円から100万円までの場合
日立のクレジットがご利用いただけます。

●商品のお問い合わせ、クレジットのご相談、カタログのご請求はお近くの日立の家電品取扱店へどうぞ。★日立カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。★日立カセットレコーダーには保証書がついています。ご購入の際には必ず記入事項をご確認のうえ、お受取りになり、大切に保存してください。

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二〇九号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五七年六月二十五日印刷
昭和五七年七月一日発行
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表(467)七〇九七
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五拾円
(年間購読料三千三百円)